

生野賢司 研究者

梅雨の時期の動物という

と、カタツムリを思い浮かべる方が多いかもしれません。今回は、ぐるぐる巻いた殻を持つ貝のお話です。

「でんでんむしむし か

ひとはく 研究者 だより



「たつむり」と童謡に歌われているように、カタツムリは最も身近な貝類の一つと言えるでしょう。一方、私が研究しているアンモナイトは化石でしか見つからず、生きている姿を観察できないため、どんな生物だったのかはあまり知られていません。

アンモナイトとカタツムリ 殻の内部に違い



アンモナイトの化石(左)とその断面

カタツムリとアンモナイトはどちらも軟体動物に属しますが、細かく分類するとそれぞれ別のグループの動物です。「カタツムリ」という語は陸上に生息

する巻き貝の総称で、その中でも丸みのある殻を持つ種類を指して使われるのが一般的です。巻き貝の仲間

は専門用語で「腹足類」というグループを構成しています。食卓にのぼる種類ではサザエや、いわゆるツブ貝(エゾボラなど)が含まれます。巻き貝の仲間であるカタツムリに対して、アンモナイトは「頭足類」というグループに含まれる動物で、分かりやすく言えばイカやタコの仲間です。殻を持つアンモナイトがイカやタコの仲間と聞くと驚かれるかもしれませんが、実はイカの中には殻(甲)を持っている種類もいます。アンモナイトに似た殻を持ち、「生きた化石」と呼ばれるオウムガイも、この頭足類に含まれます。

最大の違いは殻の内部の様子です。巻き貝の仲間は殻の入り口から奥までがつながった一つの空間になっています。サザエをつぼ焼きにして食べるとき、身の部分をうまく取り出せる

と、くりりと巻いた内臓を見ることが出来ます。一方、アンモナイトの殻の内部には「隔壁」と呼ばれる仕切りが何枚もありま

す。海の中で生きていたアンモナイトは、仕切りで区切られた部屋の大部分をガスで満たし、浮力を得ていたと考えられています。梅雨の晴れ間、空っぽになったカタツムリの殻を見つけたときは、ぜひ拾ってみてください。「おまえの仕切りはどこにある?」と

殻の中を観察すれば、アンモナイトとの違いがよく分かるでしょう。